

公表

事業所における自己評価結果(保育所等訪問)

事業所名		こども発達支援センターにじいる		公表日		2025年 2月 3日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点	
環境 体制・ 整備 運営	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	1		・教具は使っていない。 ・学習活動をより円滑にするための補助具については適宜紹介し、実際に利用して効果を確認した。		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	1		・希望者数と当事業所が対応可能な人数を調整しながら実施しているが、今後希望者が増加すると十分な対応が困難になることが予想される。	
業務 改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2		・特定の訪問担当者に業務が集中しないよう計画段階からチームで検討している。	・多くの職員が関与し続けることは難しい面があるため、検討が必要である。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2				
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	1	・月1回担当者ミーティングを行い、情報共有を行っている。	・担当者は専門的個別支援も兼務しているため、意見を十分に反映できていない面がある。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2		・外部評価は行っていないが、訪問先職員と保護者の評価を受け止めつつ担当者、管理者とで調整しながら業務改善を試みている。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	1	1	・市主催の研修に毎年参加している。 ・訪問支援の質的向上については、昨年度先進市の事業所を視察した。		
適切 な支 援の 提 供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2		・こどもと保護者のニーズ及び訪問先の状況等をふまえたうえで支援計画を作成している。		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2		・当事業所の通所サービスを利用しているこどもについては、それらの支援計画も参考に、幅広い視点に立った計画が作成できるよう留意している。 ・訪問サービスのみの場合も可能な限り複数の専門職で検討しながら支援計画を作成している。		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2		・学級担任や授業担当者の児童に対する評価や学習活動等の目的や取組の意図を聞き取るために、訪問開始時だけでなく、可能な限り訪問のたびに情報交換を行うよう心がけている。		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		・情報共有するよう努めている。 ・職員間で日常的に利用児童の情報共有がしやすい雰囲気づくりに留意している。		
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2		・インフォーマルなアセスメントについては、学級担任や保育・授業担当者の所見などを聞く機会を訪問のたびに設定している。 ・標準化されたアセスメントツールの利用に当たっては、学校園と情報交換をしながら実態把握に努めている。		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2		・当事業所では、間接支援が中心で、直接支援を行う機会はほとんどないが、間接支援における支援の視点については、担当者が理解して訪問に従事している。		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		・支援計画については、全ての職員が必要時に閲覧できるよう児童別にファイリングされている。また、定期的に訪問担当者のミーティングで保育所等訪問での支援の状況について、情報共有を行っている。		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2		・担任とは、連携している。 ・訪問担当者が1名の場合は、事業所内職員間での情報共有は必要などのみ行っている。	・支援に入る前に必ず打合せを行っているわけではない。 ・訪問先の学級担任や特別支援教育コーディネーターとは、毎回打ち合わせを行うことを基本としているが、学校園行事等で打ち合わせを毎回確実に行うことは難しく、メール連絡や終了時に次回の日程調整をするなどで代替せざるを得ないことがあった。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2		・報告書や振り返りの時間に行っている。	・訪問のたびに、振り返りの時間をとるよう学校園と時間設定を工夫しているが、学校園の繁忙期などは、行うことが難しいこともあった。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2		・訪問先の学校園の経営理念や学校目標、学級目標、担任の願い、担任がふだん取り入れている手法などを受け止め、それらに基づいた支援を行い、児童や保護者が混乱することがないように心がけている。		

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2		・記録は毎回かさず所定の様式にまとめ、次回の訪問時および保護者への説明に活用している。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2		・モニタリングを6か月ごとに行い、支援期間の目標に対する成果と課題をもとに、今後の意向を保護者から丁寧に聞き取り、次の支援期間に反映している。また学校園での状況をもとに訪問を継続する必要があるかどうかについて保護者とできるだけ丁寧に話し合っている。	・保育所等訪問支援が終了した場合も、地域支援による学校園訪問とスムーズに移行するしくみを確立させたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2		・障害児相談支援事業所のサービス担当者会議には、地域支援担当者が出席している。地域支援担当者は、保育所等訪問に必要に応じて同行したり、モニタリングに出席したりして、当事業所の保育所等訪問支援の現場を把握したうえで関係会議に参加するよう努めている。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2		・保育所等訪問支援担当と地域支援担当者が密に連携し、教育委員会の特別支援教育担当部局や保育担当部局、教育センターなどと連携することができている。	・保健、医療部局との連携については、今年度はその必要性がほとんどなかったため、具体的な連携は行っていない。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2		・就学前年だけでなく、必要によっては、3才児の段階から、園や保護者の希望や意向、就学にあたっての不安等を聞き取り、小学校（特別支援学校小学部）に安心して入学できるよう、本人への支援のあり方だけでなく、環境整備、相談体制の移行などについても必要に応じて取り組んでいる。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	1	1		・昨年度は、先進的に取り組んでいる県内の事業所を視察したが、今年度は、時間面、人員面での余裕がなく、専門性向上のための研修を行うことができていない。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	1	・自立支援協議会には、児童発達支援管理者、および地域支援担当が出席し、地域の学校園との連携や、相談支援事業所等との連携を保てるよう取り組んでいる。	・訪問担当者自身が参加できていない点については、今後事業所としてどのように改善するか、組織的に検討したい。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2		・保護者との日頃からの情報共有等は、重要なこととして大切にしているところである。とりわけ、学校園で児童が積極的に活動できたときや個性が発揮できたときには、保護者に具体的に伝えられるよう心がけている。ほとんどの保護者も学校園でのようすを知ることができることを期待しており、そのことを保育所等訪問支援の意義と考えている保護者も多い。	・保育所等訪問支援に加えて当事業所の児童については、送迎時などに支援場面や日常生活の様子などを保護者と情報共有している。保育所等訪問支援のみ利用している場合は、保護者との情報共有は、訪問後の報告時のみしか機会がないのが現状である。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	1	・当事業所では、保護者が相互に自由に情報共有できる「おしゃべり会」を年11回行ったり、ペアレント・トレーニング講座「わくわく子育てセミナー」を毎年開催しており、広報紙「にじいろ通信」で案内している。	・ペアレント・トレーニング講座は、未就学児対象のプログラムのみ実施しており、学齢期以降のニーズには対応できていない。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2		・契約時に、事務専門員より、契約時の重要事項説明等を詳細に行っている。また、訪問担当者から、保育所等訪問支援のしくみや実際について、丁寧に説明している。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2		・例年、年度初めに主幹が課市内学校園の校長会で保育所等訪問支援の趣旨説明と受け入れ依頼を行い、その後事業所担当者が各学校を訪問し、管理職および学級担任、特別支援教育コーディネーター等に対して、訪問支援の依頼と具体的な支援内容等について説明している。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2		・モニタリング時に保護者に説明する際に、本人の意向を尊重してほしいことを説明するとともに、学校園の担当者からも訪問があることを本人がどのように受け止めているかを聞き取って、それをもとにこどもの意向を尊重した訪問支援について保護者と共に考えている。	・本人の意向については、訪問後やモニタリング時の保護者との情報交換の場で話題にすることにしており、具体的に本人の意向を聞き取る機会を設定するしくみにはなっていない。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2		・書面での「保育所等訪問支援計画」を示し、訪問の目的と内容について説明し、保育所等訪問支援計画の同意を得ている。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	2		・訪問のたびに、訪問記録を作成し、対面にて保護者に訪問内容を説明しており、その際に、家庭での様子や現在の課題、将来に向けて不安な点などを聞き取って、必要に応じて相談の機会を別途設けることとしている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2		・保護者間の交流の場として「おしゃべり会」を年11回実施している（対象は事業所利用有無に関係なし）。	・きょうだいが交流し合える会については、必要性は感じているが実施できていない。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2		・保育所等訪問支援事業利用者のみを対象にしたものではないが、当事業所では、地域支援担当が専門職等と連携し、必要に応じて相談を受けたり、希望や申し入れを聞き取ったりする体制を今年度より整備している。	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	1	・毎月「にじいろ通信」を発行し、事業所の活動の概要を紹介している。 ・三木市のホームページ内に当事業所のWebページを設けている。	
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		・市の個人情報保護に関する研修を職員が受講し、それに準拠して、個人情報の保護に努めている。	

	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2		・事業全般において重視して取り組んでいる。今年度の例として、聴覚障害のある保護者とのモニタリング時には、手話通訳を介して意思疎通が十分に行われるよう取り組んでいる。	
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2		・保育所等訪問支援に係る打ち合わせや振り返り時だけでなく、ふだんの学校園での教育・保育活動などでの疑問点や相談などには、専門職が電話やメールでニーズに対応している。また、必要なときに気軽に相談できる雰囲気づくりにも留意している。	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2			・学校園が時間を取れる限り行っているが、行事等で学校園が繁忙な時期は、やむを得ず短時間の最低限の情報交換あつたり電話やメール等で行ったりする場合もある。有効な解決策は見出し難い。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2		・訪問のたびに、訪問記録を作成し、対面にて保護者に訪問内容を説明し、あわせて家庭でのようななどを聞き取り次回の訪問計画の参考にしていく。	・就業している保護者などの場合、毎回対面にて報告する機会を設定することが負担となってしまうことが課題であり、共有方法については検討の余地がある。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		・三木市の個人情報保護のポリシーに準拠して、個人情報の保護に努めている。	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2		・打ち合わせや振り返り時だけでなく、ふだんの教育・保育活動などで専門的なアドバイスを求められたときなどには、気軽に電話等で相談できるよう些細に感じられる話題であっても日常から情報交換している。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2		・当事業所の通所サービスに準拠して行っている。また、当該学校園の感染症の流行状況や事故発生状況等に留意して訪問を行っている。	
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2		・安全管理に必要な研修を職員が受講したうえで、事業所全体の取組の一環として行っている。	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2		・今年度、保育所等訪問支援におけるヒヤリハット事例は現在のところ発生していないが、事業所内の事例を全職員で共有し再発防止に留意している。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2		・今年度、対応を必要とする事例は現在のところ発生していないが、研修会には必ず出席している。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2		身体拘束を必要とする事例は発生していないが、研修会には必ず出席している。	